



年間第2主日 (ヨハネ 1:35-42)

イエスのもとに泊まる人になる

今週と来週二週間、感染拡大の影響で公開ミサが中止となりました。ふだんの説教と違い、皆さんの手元に届けるため、手短かに話したいと思います。配られた説教の原稿を、去年の緊急事態の時期を乗り越えた時のように、役立てて下さい。また、余裕のある人は YouTube (ユーチューブ) から Kouji Nakada を探して下さいと、1月10日、17日、24日のミサの様子を見ることができます。よかったら登録して下さい。

洗礼者ヨハネの二人の弟子がイエスに「どこに泊まっておられるのですか」(38節)と尋ねると、イエスは「来なさい。そうすれば分かる」(39節)とだけ答えました。ここからの描写を今あらためて読むと、おかしな点があります。次のように書かれています。「そこで、彼らはついて行って、どこにイエスが泊まっておられるかを見た。そしてその日は、イエスのもとに泊まった。」(39節)

「どこにイエスが泊まっておられるかを見た。」この描写、これまでずっと目が留まりませんでした。豪華な宮殿に住んでいることを想像していたのでしょうか。あるいは贅沢な生活を想像して、確かめに行ったのでしょうか。ただ単に、どこにイエスが泊まっておられるか知りたかったのでしょうか。

これは「泊まる」という言葉を掘り下げることで解決します。「泊まる」には「教えや信仰など、ある状態にとどまる」という意味もあるそうです。すると弟子たちが見たのは「イエスが父なる神に深く一致し、神との親しさにとどまっている姿を見た」となります。そして、彼らがイエスのもとに泊まったということも「父なる神との親しい交わりに招き入れられ、時を過ごした」そういうことを意味するのです。

父なる神との親しい交わりを体験することを、「イエスのもとに泊まった」と表すのは興味深いことです。私たちは1月17日からまたも公式ミサの中止に追い込まれました。これは起こっていることだけを見れば悲しいことですが、見方を変えれば、すばらしい機会を得たとも言えるかも知れません。なぜなら、「そしてその日は、イエスのもとに泊まった」朗読箇所書かれている通りの体験に招かれているからです。

考えてみて下さい。教会聖堂での時間と、自宅での時間、どちらが長いでしょうか。自宅での時間がはるかに長いはず。教会聖堂は、いつか自宅に帰る時間が来ます。「そしてその日は、イエスのもとに泊まった」この体験ができるのは教会聖堂でしょうか、自宅でしょうか。

私たちは、公式のミサの時間を奪われました。しかし神は、体験の機会も与えて下さいました。各自が持っている聖書を読んだり、聖書と典礼を用いたりして、「イエスのもとに泊まる」体験をする機会が与えられました。まずは今週と来週、イエスをお迎えし、イエスのもとに泊まりましょう。お迎えしたイエスは私たちを宣教へと派遣して下さいに違いありません。